

# 生活科で活用する

## 本場面におけるポイント

### ●活動への動機付けとして

導入の段階で、内容に関わる絵や写真を見て、取り組む活動への興味や関心を深めることができるようにする。

### ●補助的な教材等として

学習の中でワークシートの一部として生かして、活動の内容や方法について広げられるようにする。

### ●振り返ったり今後につなげたりするときに

活動したことを振り返ったり、この後やりたいことを見つかけたりするときに生かす。



## ●学校生活を豊かに広げていく学習活動で意欲と見通しをもつための活用(第1学年)

### 1 単元名 がっこうたんけんたい

### 2 ねらい

- ・学校で発見したことや関心をもったものに直接触れ、積極的に関わろうとする。
- ・楽しく安心して遊びや生活をしようと工夫する。
- ・学校には自分に関わる多くの人がいることや、様々な場所や物があることに気付く。

### 3 単元展開の構想(全21時間)

〈実施時期5～6月〉

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
<b>1 こうていであそんでたのしもう ②</b> ・校庭の施設や草花、生き物に自由に触れ、楽しむ。	◆「はっけんカード」や「おねがいカード」を色別で用意し、子どもが意欲を高め、関心を深められるようにする。 ◆学級全員の発見したことが集約できる床地図をもとに、学び合いやすい環境をつくる。 ◆「心のノート」P.80～85の活用 校舎内を探検する事前の動機付けで、このページを一緒に開き、見通しがもてるようにする。
<b>2 こうていにあるものをさがそう ⑥</b> ・見つけてきたものを絵や短い文に表して、床地図に貼ったり、その場所に行ったりして紹介し合う。	
<b>3 わたしたちのたんけんたいをつくらう ③</b> ・探検隊をつくり、必要なものを準備する。	
<b>4 こうないをたんけんしよう⑧</b> ・校内の様々な教室や施設に行き、それらを使ったり、人と触れ合って遊んだり、話したりする。	
<b>5 お気に入りやしょうかいしよう ②</b> ・自分のお気に入りや、自信をもってみんなに知らせる。	

## 4 「心のノート」活用の実際

本単元では、学校の人や施設に関心を深める活動を通して、子どもが学校への親しみを深め、学校生活を楽しく過ごせるようにしたいと考えた。

そこで第4小単元「こうないをたんけんしよう」では、1・2年用P.84～85「おせわになつてます!」の中の「あいについてみよう」「おしえてもらおう」という投げ掛けを生かして、探検活動へ



活動の見通しをもつために生かすページ

## 具体的な活動や体験につなげて自立への基礎を養う

の動機付けをした。すると、子どもは、「うちの学校にもそんな部屋があるよ」「もっとこんな人がいるよ」と発言し、関心を広げる様子が見られた。

## ●地域の生活に関心を広げる学習活動での活用(第2学年)

### 1 単元名 自分の町となかよし

### 2 ねらい

- ・身近な地域の人や場所に親しみをもち、自分の生活を広げようとする。
- ・地域で関わったこと、気付いたことなどを表現する。
- ・自分たちの生活は、地域の施設や自然、人と関わっていることに気付く。

### 3 単元展開の構想(全17時間)

〈実施時期9～10月〉

子どもの意識と学習活動	教師のはたらきかけ
<b>1 学校の周りにはどんなところがあるだろう②</b> ・経験などをもとに学校の周りの好きなところを発表する。	◆よく知っている人や親しい人などについて話し合い、地域と関わろうとする意欲を高める。 ◆カードに書いたり対話したりして、子どもの気付きを引き出すようにする。 ◆「心のノート」P.88～91の活用 ・地域の人に目を向ける手掛かりとする。 ・「新聞」作りの一部を取り込んで、「心のノート」の活用への意欲を高める。
<b>2 実際に行ってみて、そのよさをつかもう ④</b> ・歩き方を計画し、グループで活動し、地域のよさを探す。	
<b>3 どんなところがよかったか発表しよう④</b> ・発表をもとに、さらに行ってみたいところなどを広げる。	
<b>4 「おすすめのおしよ」を確かめについてみよう③</b> ・関心別のグループで、2回目の地域での活動をする。	
<b>5 町しらべ「おすすめのおしよ」ほうこく会しよう④</b> ・体験したことや調べたことを絵や文に表して交流する。	

## 4 「心のノート」活用の実際



1・2年用P.90～91に書き込んでみる



おいしさの秘密を店で取材

### (1)地域の様々な人に関心を広げる

1・2年用P.88～91「あなたがそだつ町」には、子どもと関わりのある多様な人との思いが表されている。2回目の地域での活動の前にこのページを見て、今までの経験等を話し合い、子どもの関心を広げるようにした。

### (2)「新聞」に書き込む機会をつくる

P.90～91「○○○○新聞」のページの中で、3つのコーナーの好きな一つの枠を学級で一緒に書き込んだ。そうすることによって、日常生活の中でも他のところをもっと書いてみたいという意欲が高められると考えた。

# 音楽科で活用する

## 本場面におけるポイント

- 教材に対する理解を深めることに生かす  
授業の終末で、内容に関わるページに学んだことや自分の考えなどを記入することにより、教材である郷土の伝統音楽に対する理解を深めることに生かす。
- 教材のイメージを膨らませることに生かす  
導入の段階で、内容に関わるページの写真を見たり、文を読んだりすることで、教材のもつ豊かな自然の美しさへのイメージを膨らませることに生かす。



## 鑑賞の授業での活用事例(第1学年)

- 1 題材名 我が国とアジアの民謡を聴こう
- 2 ねらい 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞する。
- 3 教材  
(例)「安来節」(島根県) / 「ソーラン節」(北海道) / 「こきりこ節」(富山県)  
「プンムルノリ」(朝鮮半島) / 「平安の喜び」(モンゴル) / 「草原情歌」(中国)
- 4 題材の指導計画(2時間)と「心のノート」活用の実際

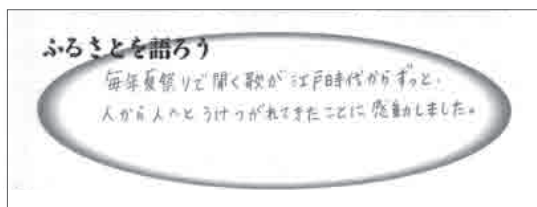
### (1) 我が国の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴を比較する。(1時間)

- ・CDで日本各地の民謡とアジア地域の諸民族の音楽を聴く。
- ・共通点や相違点など気付いたことを話し合う。

### (2) 郷土の伝統音楽の特徴から、音楽の多様性を感じ取る。(1時間)

- ・郷土の民謡保存会による演奏を鑑賞する。
- ・前時に聴いた日本各地の民謡やアジア地域の諸民族の音楽と比較して、気付いたことを発表する。
- ・郷土の民謡保存会の方から、曲の歴史的・地域的な背景などの説明を聞く。
- ・保存会の方の演奏を再度鑑賞する。
- ・中学校用P.120「ふるさとを語ろう」の欄に、郷土の伝統音楽の鑑賞を通して感じたことや自分の考えなどを記入する。

中学校用P.120～121



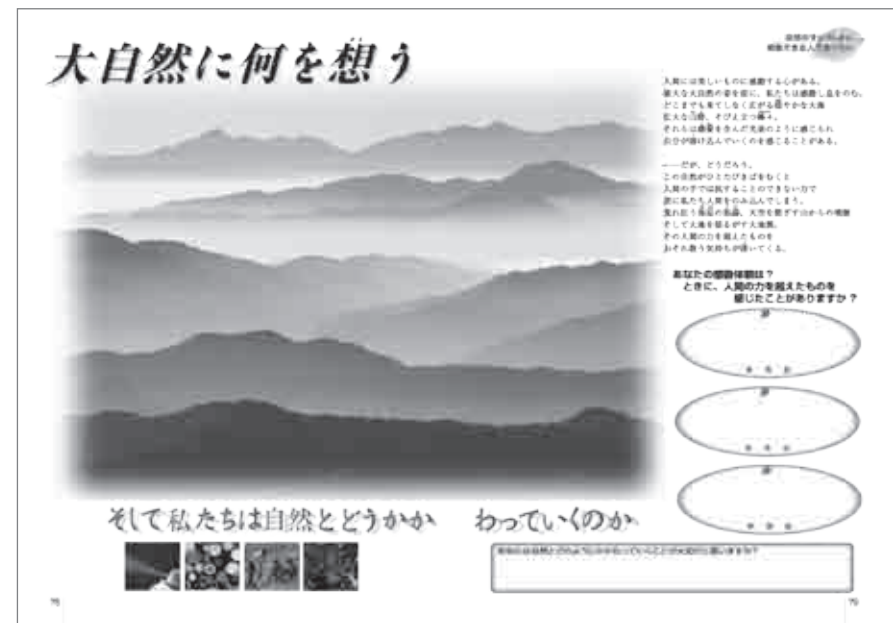
**留意点** 中学校用P.120の「ここにはいつもの風景 いつもの音 そしていつもの顔がある」という文章を読むことにより、郷土をつくりあげてきた伝統と文化、先人や地域の人々に対する認識を深めたい。

教材に対して、理解を深めたりイメージを膨らませたりする

## 歌唱の授業での活用事例(第2学年)

- 1 題材名 情景を想像しながら歌唱を工夫しよう
- 2 ねらい 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい自己のイメージや感情を広げ、創意工夫して歌う。
- 3 教材 共通教材「夏の思い出」
- 4 題材の指導計画(3時間)と「心のノート」活用の実際
  - (1) 範唱を聴き、歌詞の内容や曲想を味わう。(0.5時間)
    - ・中学校用P.78～P.79「大自然に何を想う」を読み、自然の美しさを感じ取ろうとする姿勢をもつ。
    - ・CDで範唱を聴き、歌詞が表す情景を捉え、歌詞の内容や言葉のリズムと旋律、速度、強弱との関わりなどを感じ取る。
  - (2) 曲想を生かし、曲にふさわしい表現を工夫する。(1.5時間)
    - ・グループごとに、曲の形式や楽譜に記された様々な記号などを捉えて、情景を想像しながらどのような表現が適切か話し合う。
    - ・話し合った内容をもとに、グループで斉唱する。
  - (3) 思いや意図をもって歌う。(1時間)
    - ・グループごとに斉唱の発表をする。
    - ・お互いのグループの表現についてよいと思ったことなどを話し合う。
    - ・情景を想像しながら全体で斉唱する。

中学校用P.78～79



**留意点** 中学校用P.78～P.79「大自然に何を想う」は、大型テレビなどを使って提示するのも効果的である。自然の美しさに感動したり、自然の中で癒される自己に気付かせたりしたい。